



平成24年2月14日

報道関係各位

株式会社 UMN ファーマ

ノロウイルス・ロタウイルス混合ワクチンの全世界における独占的事業化権を タンペレ大学ワクチン研究センターのヴェシカリ教授・ブラゼヴィッチ博士より取得しました

株式会社 UMN ファーマ(本社:秋田県秋田市、社長:金指秀一、以下「UMN ファーマ」)はフィンランド・タンペレ大学ワクチン研究センターのティモ・ヴェシカリ教授、ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士と、ノロウイルス・ロタウイルス混合ワクチンの全世界における独占的事業化権に関するライセンス契約を締結しました。本ワクチンはウイルス性胃腸炎の主な原因となるノロウイルスのウイルス様粒子(VLP)とロタウイルスのウイルスたん白質 VP6 を混合したアジュバントを含まない注射剤です。本ワクチン原薬は、バイオ医薬品の次世代製造プラットフォームである Baculovirus Expression Vector System (BEVS) を用いて製造します。UMN ファーマとタンペレ大学ワクチン研究センターが共同で本ワクチンの試験研究を開始し、2013 年の第 I/II 相臨床試験入りを目指します(開発コード:UMN-2003)。

当社取締役会長 道下真弘は、「永年世界のワクチン研究をリードされてきたヴェシカリ教授、ブラゼヴィッチ博士とコラボレーションができることを大変光栄に思います。現在、ノロウイルスに対するワクチンで市販されているものはありません。本ワクチンはアジュバントを一切用いずノロウイルスとロタウイルスの感染を同時に予防できる画期的ワクチンです。大きな社会問題となっているウイルス性胃腸炎のワクチンとして一日も早く利用できるよう、全力で開発を進める所存です。」と述べております。

タンペレ大学ヴェシカリ教授は、「UMN ファーマとのコラボレーションにより、迅速に開発を前進させるための GMP 治験薬製造が可能となることを大変うれしく思っています。このノロウイルス・ロタウイルス混合ワクチンのコンセプトには確信を持っており、ヒトでプルーフ・オブ・コンセプトを取得する試験が開始できることを心待ちにしています。」と述べております。

■ノロウイルス・ロタウイルスワクチン開発品について

本開発品はノロウイルス VLP とロタウイルス VP6 の混合ワクチン注射剤です。本ワクチン接種により、ウイルス性胃腸炎の主要な原因ウイルスの感染を一つのワクチンで予防することが期待されます。マウスを用いた試験ではノロウイルス VLP とロタウイルス VP6 を混合接種することで、それぞれの抗原性に干渉することなく、高い免疫原性が確認されています。本ワクチンは複数株のノロウイルスとロタウイルスに対して交差免疫を発揮するようにデザインされた組換えワクチンであり、長期にわたる免疫持続効果が期待されます。

毎年、全世界でノロウイルスにより約 20 万人、ロタウイルスでは約 45 万人が命を落としていると言われていす。先進国においては死に至るケースは少ないものの、医療経済的損失が甚大なためワクチンによる予防が求められていますが、市販されたノロウイルスワクチンは未だありません。ロタウイルスに対する生ワクチンは多くの国で接種可能ですが、腸重積症を誘発する副反応の懸念が払拭できず、生ワクチンに代わる安全性の高いワクチンの開発が強く望まれています。

■ティモ・ヴェシカリ教授の略歴

ティモ・ヴェシカリ教授はタンペレ大学医学部ウイルス学部門の教授で、ワクチン研究センター長及びタンペレ大学病院の小児感染症科診療科長を兼任しています。1969 年にヘルシンキ大学医学部卒業、1972–1975 年ニューヨークのペルビュー病院及びブルーズベルト病院にて研究に従事、1981–1987 年タンペレ大学小児科教授等複数の要職を歴任しました。ヴェシカリ教授は 1982–1983 年世界初のロタウイルス経口生ワクチンの臨床研究に従事、Rotarix[®] (GSK) の治験責任医師や RotaTeq[®] (Merck) の治験 REST の治験総括医師を担当しました。上記 2 つの治験をまとめた 2006 年の報告は、著名な医学雑誌である The Lancet 誌の “Paper of the Year in 2007” を受賞しています。近年はノロウイルスとロタウイルス混合ワクチンの研究に精力的に取り組んでいます。

■ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士の略歴

ヴェスナ・ブラゼヴィッチ博士はタンペレ大学医学部にて免疫学の博士号を取得後、1997-2000 年米国国立衛生研究所(NIH)にて HIV 感染症における免疫調節異常や細胞性免疫応答の基礎研究に従事、近年は FIT Biotech 社で科学技術部門長として HIV に対する DNA ワクチンの開発に携わりました。ウイルス学やワクチン免疫学を専門としており、非臨床試験及び臨床試験におけるワクチンの免疫原性や有効性の評価を数多く担当しています。2009 年からタンペレ大学ワクチン研究センターの研究室長を務めています。



■タンペレ大学ワクチン研究センターについて

タンペレ大学ワクチン研究センターはタンペレ大学医学部が運営する臨床試験部門で、世界の主要ワクチンメーカーやバイオベンチャーなどと共同で多数の臨床試験を実施し高い評価を得ています。1979年からワクチンの臨床試験を開始し、1991年からGCP下で臨床試験を実施しております。フィンランド国内15のワクチン研究施設と連携し、このネットワークにより大規模臨床試験や国際共同治験の実施が可能な、ワクチン研究の一大拠点となっています。

ワクチン研究センター内にある研究所では小児に対する画期的な新規ワクチンの研究に取り組んでおり、ここ数年はノロウイルスとロタウイルスが原因ウイルスである急性胃腸炎に対する混合ワクチンの開発に取り組んできました。

— 本件に関するお問い合わせ先 —
株式会社 UMN ファーマ 事業開発部
電話: 045-624-8341
E-mail: press@umnpharma.com